



土壌くん蒸剤

三洋 NCS™

農林水産省登録
第 1 9 2 3 3 号

種類名／カーバム剤

有効成分の種類及び含有量／カーバム〈PRTR1種〉……………50.0%

その他の成分の種類及び含有量／水、安定剤 等……………50.0%

物理的・化学的性状／淡黄色澄明水溶性液体

毒劇法／該当なし

消防法／該当なし

有効年限／3年

包装／500ml×20本 ダンボール箱

10ℓ ポリ缶

20ℓ ポリ缶

TM：デュポン、ダウ・アグロサイエンスもしくはパイオニアならびにこれらの関連会社または各所有者の商標

特長

- カーバムは、土壌中で化学変化をおこしてガス化し拡散することにより、土壌病原菌、センチュウ、雑草又は雑草の種子の生体活性点と結合して、殺菌・殺虫・除草効果を発揮します。
- 水溶性液剤なので使用しやすく、ジョウロや灌水チューブなどの処理が可能です。
- 専用散布機をトラクターに装着すると、散布と土壌混和を同時に行なうことができます。
- オゾン層破壊の心配が無く、臭化メチルの代替剤として使用できます。

適用病害虫・雑草及び使用方法

作物名	適用病害虫及び雑草名	使用量	使用時期	本剤及びカーバムを含む農業の総使用回数	使用方法
キャベツ	パーティシリウム 萎凋病	原液として 30ℓ/10a	植付14日 前まで	1回	散布全面処理(無被覆) 無被覆の場合、原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和をして、7～10日後にガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付をする。
	パーティシリウム 萎凋病 根こぶ病				散布全面処理 原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和して、ビニール等で7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付をする。
はくさい	根こぶ病 黄化病		播種14日 前まで		灌水チューブ法 予め灌水チューブを設置し、ビニール等で被覆する。原液30ℓを水と共に10a当り水量が3000ℓ(100倍希釈)になるように灌水注入して、7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付又は播種をする。
ほうれんそう	萎凋病				散布全面処理 原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和して、ビニール等で1～2週間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に播種をする。
ねぎ (春播露地 栽培苗床) わけぎ (春播露地 栽培苗床) あさつき (春播露地 栽培苗床)	畑地 一年生雑草				散布表面処理 原液を水で30倍に希釈して、ジョウロ等で土壌表面に均一に散布して、ビニール等で1～2週間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に播種する。
たまねぎ (秋播露地 栽培苗床)			播種30日 前まで		
だいこん	ネグサレセンチュウ		播種14日 前まで		散布全面処理(無被覆) 無被覆の場合、原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和をして、7～10日後にガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に播種をする。
					散布全面処理 原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和して、ビニール等で7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に播種をする。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤及びカーバムを含む農薬の総使用回数	使用方法
トマト	青枯病		植付14日 前まで	1回	<u>散布全面処理</u> 原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和して、ビニール等で7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付をする。
	褐色根腐病				<u>灌水チューブ法</u> 予め灌水チューブを設置し、ビニール等で被覆する。原液30ℓを水と共に10a当り水量が3000ℓ(100倍希釈)になるように灌水注入して、7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付又は播種をする。
きゅうり すいか	ネコブセンチュウ	原液として 30ℓ/10a			<u>散布全面処理</u> 原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和して、ビニール等で7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付をする。
いちご	萎黄病				<u>灌水チューブ法</u> 予め灌水チューブを設置し、ビニール等で被覆する。原液30ℓを水と共に10a当り水量が3000ℓ(100倍希釈)になるように灌水注入して、7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付又は播種をする。
こんにゃく	根腐病		植付30日 前まで		<u>散布全面処理</u> 原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和して、ビニール等で7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付をする。
たばこ	ネコブセンチュウ	原液として 15ℓ/10a	春期耕転時、 但し、 作付けの 30日以上前		<u>畦土壌全面処理</u> 原液を水で3倍に希釈して、土壌耕転時に土壌全面に均一に散布し、直ちに土壌混和後、成畦被覆する。
	疫病	原液として 20、30ℓ/10a	春期秋期 耕転時、 但し、 作付けの 30日以上前		<u>散布全面処理</u> 原液を水で2～4倍に希釈して、土壌耕転時に土壌全面に均一に散布し、直ちに土壌混和する。
	疫病 立枯病	原液3～5mℓ /1穴	植付前		耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15cmの穴をあけて薬液を注入し、ビニール等で7～10日間被覆する。
	立枯病	原液として 30ℓ/10a	春期秋期 耕転時、 但し、 作付けの 30日以上前		<u>散布全面処理</u> 原液を水で2～4倍に希釈して、土壌耕転時に土壌全面に均一に散布し、直ちに土壌混和する。
	黒根病	原液として 20、30ℓ/10a			
果樹類 茶 桑	白紋羽病 紫紋羽病	原液3～5mℓ /1穴	植付前		耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15～50cmの穴をあけて薬液を注入し、ビニール等で7～10日間被覆する。

青文字の作物名はグループ化されていますので詳細は(独)農林水産消費安全技術センターのウェブサイトをご参照ください

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤及びカーバムを含む農薬の総使用回数	使用方法
せんりょう	立枯病	原液2～3mℓ /1穴	植付30日前	1回	耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15cmの穴をあけて薬液を注入し覆土鎮圧する。
フリージア	菌核病	原液5mℓ /1穴	植付前		耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15cmの穴をあけて薬液を注入し、ビニール等で7～10日間被覆する。
りんどう	褐色根腐病	原液として30ℓ /10a			散布全面処理 原液を水で3倍に希釈して、土壤耕耘時に土壤全面に均一に散布し、直ちに土壤混和して、ビニール等で7～10日間被覆する。
カーネーション	ニセナミハダニ	原液1mℓ /㎡	栽培終了後		ハウス内くん蒸 所定量をハウス内通路に均一に滴下し、処理後4～6日間密閉する。
きく	ネグサレセンチュウ	原液3～5mℓ /1穴	植付前		耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15cmの穴をあけて薬液を注入し、ビニール等で7～10日間被覆する。
	立枯病	原液として30ℓ /10a			原液を水で3倍に希釈して、ジョウロ等で均一に灌注後土壤混和し、ビニール等で7～10日間被覆する。
花き類	苗立枯病	原液3～5mℓ /1穴	播種前		耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15cmの穴をあけて薬液を注入し、ビニール等で7～10日間被覆する。
あかまつ	立枯病	原液3mℓ /1穴			
すぎ	ネグサレセンチュウ 立枯病	又は 2倍液5mℓ /1穴			
すぎ (播種床)	畑地 一年生雑草	原液3～5mℓ /1穴	目土用土 1㎡当り 30倍液6ℓ		目土用土 作成時
芝 (目土用土消毒)	多年生雑草	目土用土 1㎡当り 30倍液6ℓ		ジョウロ等で均一に灌注し、ビニール等で7～10日間被覆する。	

青文字の作物名はグループ化されていますので詳細は(独)農林水産消費安全技術センターのウェブサイトをご参照ください

上手な使い方

○作物により、散布全面処理（土壤混和）、散布表面処理、灌水チューブ処理、点注処理など、様々な処理方法が選択できます。

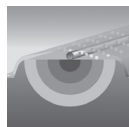
○土壤の種類、土壤水分、地温（15℃～30℃が最適）に注意を払って、処理を行なってください。



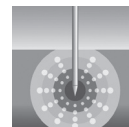
散布全面処理
(土壤混和)



散布表面処理



灌水チューブ処理



点注処理

○土壤くん蒸後は、ガス抜きを十分に行なってから植え付け又は播種してください。

○クロルピクリンと接触すると、化学反応により発熱し危険ですので、混用はしないでください。使用した散布器具などは、よく洗浄してください。



使用上の注意

- 他剤との混用はさけてください。なお、クロルピクリンが僅かでも混入すると化学反応により発熱し危険ですので、消毒に用いる器具は良く洗浄してから使用してください。
- 注入による土壤消毒を行う場合は次のことを守ってください。
 - ・本剤の処理は地温15℃以上で行ってください。
 - ・降雨直後や水分過多の土壤では効果が劣るので使用をさけてください。
 - ・粘土質土壤や大きな土塊が残っている場合は効果が劣ることがあるので、土壤を細かく砕いてから処理してください。
 - ・薬液を注入したらポリエチレンフィルム、むしろなどで7～10日間被覆してください。
 - ・消毒が終了したら被覆をとり除き耕起し、7～10日間放置してガス抜きを行ってから播種又は定植をしてください。
 - ・地温の低い時期に使用する場合は被覆期間及びガス抜き期間を長くしてください。
- 灌水チューブ法を用いて土壤消毒を行なう場合は次のことを守ってください。
 - ・薬剤を均等に処理するために水圧、灌水チューブの種類及び長さなどを選択してください。
 - ・本剤の希釈液が灌水チューブのつなぎ目などから漏れないように水圧、接続などを注意してください。
 - ・処理期間中のハウスなどは閉めておくことが望ましいですが、精密器具などがある場合は天窓などを開け故障しないよう注意してください。
- ねぎ、たまねぎに対する散布表面処理の場合は次のことを守ってください。
 - ・地温の低い時は、くん蒸期間やガス抜き期間を長くしてください。
 - ・本剤を容器からジョウロに移す時、薬液の跳ねなどに注意してください。
- たばこに対する散布全面処理の場合は次のことを守ってください。
 - ・処理に際し、大きな土塊が残っていると効果が劣ることがあるので、土壤を細かく砕いてから処理してください。
 - ・処理は、トラクター耕耘時にロータリーの直前に散布し、直ちに耕耘し土壤混和してください。
 - ・処理後30日以上期間を空けてから播種又は定植してください。
- 芝の目土用土消毒の場合は、ビニールなどを敷いてその上に用土を約30cmの高さに積みジョウロなどで薬液を灌注してください。必要な場合は、その上にさらに30cmの用土を積み同様の処理をくり返してください。処理後直ちに用土全体をビニールなどで被覆し、7～10日間おいてください。その後被覆をとり耕起してガス抜きを行い、7～10日以上おいてから用土として使用してください。
- 本剤の芝に対する使用は、目土中に含まれる雑草の種子や塊茎を殺すものであるため、誤って芝生の除草剤として直接散布することのない様に注意してください。
- 果樹類、茶、桑に使用する場合は、被害株を抜き取った跡地に本剤を注入してください。本剤処理7～10日後に被覆を除去して耕起し、翌春に植え付けをしてください。
- 散布機などのノズルに目詰まりをおこす場合があるので、開栓後は速やかに使い切ってください。
- 本剤使用後の器具は十分水洗いしてください。
- 使用量に合わせて薬液を調製し、使い切ってください。散布器具及び容器の洗浄水などは河川等に流さないでください。また、空容器は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。



安全使用上の注意



- 誤飲などの無いよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 土壌くん蒸処理の際は、吸収缶（活性炭入り）付き防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。また被覆作業時及びシート除去の際にも、吸収缶（活性炭入り）付き防護マスクを着用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 灌水装置の取扱いの際には、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- ハウス内で使用する場合、薬剤処理中はハウス内に入らないでください。また薬剤処理終了後は、十分換気した後に入室してください。
- 作業時に着用していた衣服などは他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物などとの接触をさけてください。
- 夏期高温時の使用をさけてください。
- 作業に際してはガスに暴露しないよう風向きなどを十分考慮してください。
- 住宅周辺での使用に当たっては、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮してください。

水産動植物…水産動植物（魚類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池などに飛散、流入しないように注意して使用してください。

- ・使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川などに流さないでください。また、空容器などは水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管…直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管してください。保存中の少量の析出物は効力に影響はありません。